



災害時の『避難所』問題について

一月二十三日(金)十時よりウエルとばた七階連絡事務室で、北九州市障害福祉団体連絡協議会(以下障団連)主催の平成二十六年第三回障団連研修会(全体会)が「災害時の『避難所』問題について」と題して行われました。

今回は、危機管理室管理課の森成司災害対策係長他二名、いのちをつなぐネットワーク推進課の佐藤浩一係長他一名、障害福祉課企画調整課の足立係長を迎え、開催されました。

「さわやか」から四名を含む約四十名が参加しました。初めに障団連の古賀由美子事務局長から挨拶がありました。

色々の意見を交わし、実りある研修会にしたい

続いて北原守会長は「今回は、災害時の避難所の問題について市の担当部所の皆様と色々の意見を交わしていききたいと思っていますので日頃、感じている事などを述べていただき、実りある研修会にしたいと思っています」と挨拶がありました。



北九州市
障害福祉団体連絡協議会
北原守会長

初めに林芳江副会長は「今回のテーマでもある『災害時の避難所問題について』は団体によって関心はそれぞれだと思えますが、危機管理室の方から災害が発生したという想定で避難準備情報が発令され、予定避難所が開設されるまでの経緯を教えてくださいました。」と話されました。

北九州市の予定避難所は 四八五ヶ所

続いて森災害対策係長は「予定避難所とは、『災害時に避難者が発生した場合、その受け入れについて理解と協力を得ることができ、避難所としての開設が見込める』とされています。」

「存知ですか? 『柳川さげもん祭り』

福岡県柳川のひなまつりに飾る『さげもん』は江戸時代末期より女の子が生まれた家に『初節句のお祝い』として、布の端切れで小物を作り飾ってお祝いをしたのが始まりだとされています。鶴、亀、えび、三番叟といった縁起の良い小物が吊るされ一つ一つ袋ものにな

める施設として市長があらかじめ指定する施設」と定義されています。

現在、北九州市には予定避難所が四八五ヶ所あり、原則全ての小・中学校が予定避難所に指定されていますが、災害の種別や気象状況によって、全ての避難所が開設されるとは限りません。

また、災害が発生した場合や発生する恐れがある場合には市長がそれぞれの区長の要請に基づいて、その対象地域に避難指示や避難勧告、避難準備情報を発令します。

危機管理室の方で災害状況を確認しながら、危険性が高まれば避難勧告を発令し、直ちに避難しなければならぬ時には避難指示を発令する事になるので、かなり危険な状況だと理解していただきたいと思います。

テレビやラジオなどで 情報収集を

避難勧告等の情報収集はテレビやラジオ、北九州市のホームページや防災情報北九州のホームページなどで確認してください。

また携帯電話であれば緊急速報メールが配信され、事前に北九州市の『もらって安心災害情報配信サービス』や福岡県の『防災メールまもるくん』に登録してもらおうと避難勧告情報などが配信されます。

また事前に避難勧告を発令する時には区役所や消防署から自治体の会長へ連絡が入るようになっております。

しかし、広報車と消防車は雨や風が強くて広報が出れない場合もあるかもしれませんので原則、テレビやラジオ、携帯電話などのツールで避難勧告等の情報収集をして、早めに避難していただきたいと思います」と話されました。

続いて質疑応答に入りました。初めに古賀事務局長は「昨年七月の大型の台風が接近した時に市の方で出された要援護者に対しての対応や連携を具体的に教えてください」と質問されました。

それに対して障害福祉課の足立係長は「昨年七月の台風では、市の方では警戒態勢をとりました。

また障害福祉課では各事業所等にFAXやメールを送付して、注意喚起をしました。

そして問題などが発生した場合には連絡をするようお願いをしました」と回答されました。

続いて参加者の一人は「市の方では土砂崩れやがけ崩れの警戒地域を把握されているとは思いますが、その地域の方々にそれが周知されているのかどうか心配です」と話されました。

森災害対策係長は「土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域内に居住されている方々には昨年の六月に避難所マップを配布して、最寄りの避難所や注意事項などが確認できるようにしております。

また現在、防災の手引きを作成しておりますので、今年の六月頃に市民全員に配布する予定にしております」と話されました。

(裏面につづく)



たくさんの方々と親睦を深める

「新年のつどい」開催

一月十三日(火) 十八時三十分より八幡ロイヤルホテルのグラウンドホールで、北九州市障害福祉団体連絡協議会(以下障団連)の交流部会主催で「障団連新年のつどい」が行われました。

今回は、北九州市議会議長に就任された戸町武弘氏をはじめ、北九州市保健福祉局、障害福祉課、危機管理室など行政の方々十六名を含む、障団連加盟団体十九団体、五十五名の参加があり、「さわやか」から四名が参加しました。

初めに障団連交流部会の大澤五恵部会長は「今年度は、

たくさんの方々との親睦を深めていただきたいという思いで企画をしましたので、本日は楽しんで下さい」と開会の挨拶がありました。

続いて主催者挨拶として、障団連の北原守会長が「障団連の目標は『共生社会の実現』です。

障害の有無に関わらず、国民誰もがお互いに人格と個性を尊重し、支え合う社会であるとともに、あらゆる活動に参加が出来る社会を目指していますので、今後ともご協力をお願いいたします」と話されました。

続いて戸町武弘市議会議長

長と北九州市保健福祉局の工藤一成局長より来賓挨拶がありました。

次に北九州市民生委員児童委員協議会の小川守盛会長が乾杯の音頭をとり、祝宴に入りました。

参加者同士、食事をしながら交流を深めました。

その後、突撃インタビューパートIが行われ、北九州市社会福祉協議会の火箱要総務部長をはじめ、行政の方々に障団連との関わりなどを話されました。

続いて、お楽しみ抽選会が行われました。

今回は、豪華賞品が十人に当たる抽選会でした。

その中の一人に「さわやか」の貞谷が当たり、豪華賞品を



ゲットしました。

次に突撃インタビューパートIIでは、加盟団体の方々に団体の紹介や今年の目標など大いに語ってもらっていました。

また大澤部会長から『見上げてごらん夜の星を』の歌詞を手話の動作で教えていただき、参加者全員で歌い、その後、記念写真を撮りました。

最後に障団連の高橋良彰副会長より閉会の挨拶があり、二十時三十分を終了しました。

では要援護者名簿を小学校区ごとに作成し、平常時から区役所と消防署で保管しており、災害時に名簿を持参し、避難所ごとに確認するようにしております。

これからは、市の担当職員ひとりひとりに障害者の特徴を把握するように教育し、漏れのない対応が出来るようにしていきたいと思っております。

そして情報の文字化に関しては細かくは決めていませんが、出入り口の見やすい場所に情報を掲示したり、筆談が可能な方であれば、避難所の職員が個別に筆談していきたいと考えております」と回答されました。

他にも色々な意見が出され、一つ一つ丁寧に答えていただきました。

まとめとして林副会長は「以前から、障害福祉課やいのちをつなぐネットワーク推進課と連絡会議を開催して話あつてきましたが、それも今は出来ていませんので、今日の研修会であげられた課題を検討していただき、避難所の整備に繋がればと思っております」と話されました。

最後に古賀事務局長が閉会の挨拶があり、研修会は正午に終了しました。

(表面よりつづき) 続いて林副会長は「もし、私達が避難所に避難をしなければならなかった場合に今、感じている事や思っている事を団体ごとに話していただきたいと思います」と話されました。

(一部抜粋して紹介)

★自立生活センターがらむ: 車椅子の利用者が福祉施設に行くまでの経路が確保できているのが心配です。

★北九州市手をつなぐ育成会: 災害が起きた時に、子供た

ちを家族や親たちがどのようにして避難するべきなのかを考えていかなければならないと思います。

★北九州市自閉症協会: 避難所などの知らない場所での生活する事は負担が大きく、大変辛い思いをされたという話を聞いていますので、

北九州市の対応がどのようなになっているのが心配です。

★北九州市難聴者・中途失聴者協会: 携帯電話での緊急メールの登録を呼びかけています。

難聴者や中途失聴者は、災害時にはメールで確認する事が出来るますが、避難所に行った場合には音声では情報が伝わらないので、文字で書いて伝えてほしいと思います。



★さわやか: 災害時に透析患者の送迎の際に、車がスムーズに道が通れるような体制やガソリンスタンドとの提携をし、ガソリンの供給を優先していただけるよう

に話し合つて決めていきたいと思つています。

★北九州市聴覚障害者協会: なるべく早く障害者別に情報を出して、このような対策だという事例を出していただきたいと思つています。

公共施設や個人病院などのテレビに字幕を付けて放映していただけるように呼びかけてほしい。など参加した団体の方々から色々な意見が出されました。

これらの意見に対して森災害対策係長は「北九州市